

「五百万石」穂肥巡回指導会資料（南部地区）

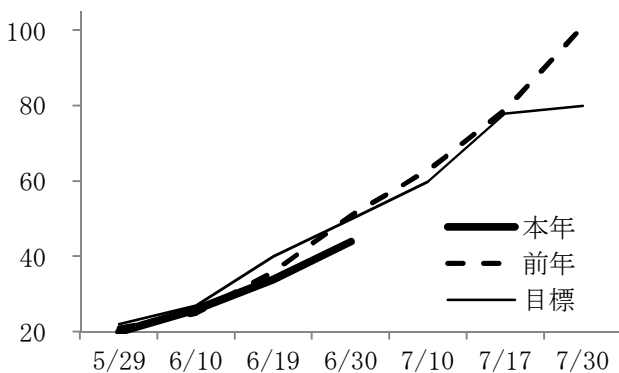
平成26年7月2日

J A羽茂 営農課

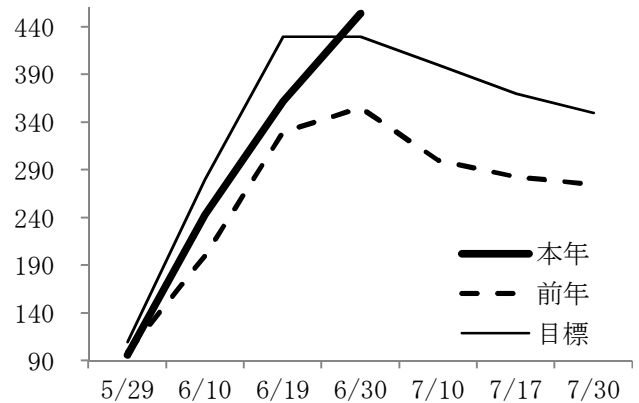
- 出穂期は、平年より1～2日早い見込み。
- 生育は、「草丈並」、「葉色淡い」
- 穂肥前で葉色が淡すぎると思われる場合は、1回目穂肥を早めに施用

1 五百万石の生育状況（6月30日現在、生育調査ほ(羽茂)）

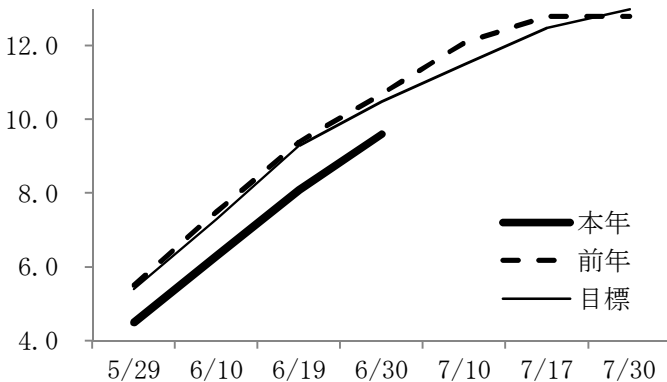
(1) 草丈(cm)



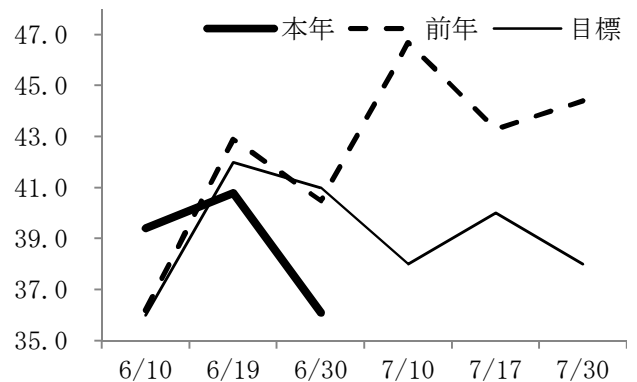
(2) 茎数



(3) 葉数(L)



(4) 葉色(SPAD)



2 出穂期予想と穂肥時期・施用量のめやす（6月30日現在）

品種名	田植日	出穂期 (予想)	穂肥の時期 ※()内は出穂前日数		N成分施用量 (10a 当たり)
			1回目	2回目	
五百万石	5/6 頃	7/28 頃	7/8	(-20) 7/16 (-12)	それぞれ 1 kg 程度

注1) 出穂期は気象条件で大きく変動することがあるので注意する。

注2) 減減栽培等で有機質資材を使用する場合は、上記日数より施用時期を2日程度早める。

3 穂肥施用のポイント

- 草丈短く、葉色淡いので、1回目の穂肥は適期に施用
- 穂肥前で葉色が淡すぎると思われる場合は、葉色維持のため、1回目穂肥は早めに施用
- 2回目の穂肥は、後期栄養の確保のため確実に施用

【参考①】穂肥1回目の穂肥時の生育量の目安と対応

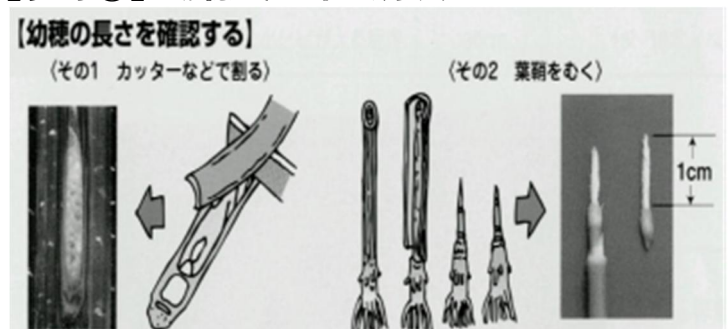
	生育量等	備考
幼穂長	0.5 cm(-20日)	穂肥1回目 ※ () 内は出穂前日数
草丈	70cm 以下	これ以上長い場合は倒伏の危険性があるので、遅らせて施用
茎数	22~24 本/株	22~24 本/株程度が目安。多い場合は遅め・控えめに施用
葉色 (SPAD)	38 以下	これよりも濃い場合は肥効が残っているので、遅らせて施用
病害虫	葉いもち、紋枯病等	穂肥の前に防除する

【参考②】幼穂長と出穂前日数

出穂前日数	幼穂長 (cm)
24	0.2
20	0.5
18	1.0
12	4~6
10	8

※ ほ場内の平均的な株から最も長い茎を抜き取り測定する。
数株から採取し総合的に判断する。

【参考③】幼穂長の確認方法



4 当面の水管理

- ① 中干し終了後は、**飽水管理（土を乾かさない水管理）**を実施し、水分を十分に供給する。
- ② 異常高温、強風フェーンの際は、急激な蒸散でイネが水分不足となるので、速やかに湛水する。
- ③ 7月中下旬に異常低温が予想される場合は、一時的に深水管理で幼穂を保護し、不稔の発生防止に努める。
- ④ **整粒割合及び千粒重の向上を図るため、早期落水を行わない。（最終落水日の目標：8月25日以降）**

飽水管理の状態



溝や足跡に水がある

5 病害虫防除

- ① 本田防除は、「穂いもち」・「カメムシ類」に加え、「紋枯病」も確実に実施する。
- ② 本田防除は基本的には個別に対応する。（コシヒカリと出穂期が異なるため）
- ③ 酒米のカメムシ対策の草刈りは、遅くとも本田薬剤防除前に終了する。
《カメムシ対策草刈り …出穂前に終わらせる（7月中旬まで）》